



希望に満ちて

さいたま市立大門小学校

心豊かで たくましい
大門小児童の育成
< 夢と目標をもち、
生き生きと活動する子ども >

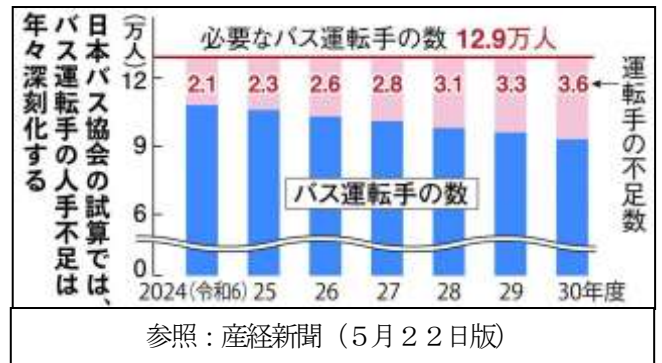
2024年問題を考える

さいたま市立大門小学校
校長 石川 聡

5月23日は令和6年度PTA理事会、スクールサポートネットワーク第1回全体会、自治会長懇談会が立て続けに開催される日でした。私は本校四年目となりましたが、改めて大門小学校の基盤が歴史と伝統ある地域とそこにお住いの皆様方、並びに保護者の皆様方に支えられているのだと実感しました。7回目を迎えるチャレンジ強歩をはじめ、様々な行事等で今後もお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、このところ、物流・運送業界の「2024年問題」に伴う学校行事への影響の話題がニュース等でも多く取り上げられています。この問題は、働き方改革法案により、物流・運送業界の運転手さんの労働時間に上限が課されることで生じているものです。

先月報じられたニュースでは、東京都内の中学校が京都への修学旅行でバスの確保ができなかったとか、富山地方鉄道では修学旅行のバスを確保するために高速バスを急遽運休にしたなど多方面への影響が発生しています。今回のニュースの中で、私が印象に残ったのは、上の修学旅行でバス確保できなかった学校の保護者の方のご意見でした。



「今回のバス手配ができなかったことの原因がドライバー不足によるものと聞いていまして、それが理由なら、これまで、私たち大人がドライバーさんたちにブラックな働き方をさせてきて、人手不足になったことも原因ではないか、と感じました。つまり、自業自得なのに、ツケを子どもが払っているということで、申し訳なく思っています。」このように答えておられる方がいました。我々の生活様式が子どもたちに悪影響を及ぼすのであれば、便利さを享受することだけを追求せず、不便さを受入れながら、DX（デジタル・トランスフォーメーション）に切り替えていくことが必要なのだと感じました。

本校でも一部学年の校外学習のバス予約確保に難儀し、確保できても例年よりも高額になってしまっています。特に、4年生の社会科見学と5年生の館岩自然の教室では、昨年より費用が多くかかってしまうこととなり申し訳ございません。ただ、子どもたちにとっては学校内では体験することのできない貴重な経験を得る行事ですので、今年度は全学年実施していきます。ただし、今後もこのような状況が続き、バス代金等がさらに高騰するようであれば、行き先や旅行方法の変更も検討せざるを得ないのではないかと考えております。

私事で恐縮ですが、昨年度末に体調を崩し、保護者・地域の皆様にはご心配をおかけしておりました。おかげさまで現在、日常生活は全く支障なくおこなっております。この間、あたたかいお言葉を数多く頂戴し、感激した次第です。今後、手術等は行わないのですが、継続した治療が必要となるため6月5日から初回の治療のみ2週間ほど病院に入ることになりました。ご心配をおかけいたしますが、校内のことは教頭を中心にしっかりと運営してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。